

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
	10%	育及び根重, 糖分含量の影響. 〔適用性〕			
3) OK-301・SA 液 (S.58年度分)	・マレイン酸ヒドレンジカルcium	・馬鈴薯の貯蔵中における萌芽抑制効果. 〔適用性〕	継		・抑制効果の検討. ・試験点数不足.
4) サスター 乳 (S.50,51年度分)	・N-(2,4-ジメチル-[(1,1,1-トリフルオロメチル)-サルフォニル]アミノ]フェニル)アセトアニリド 48%	・生育初期のさとうきびに散布し, 成熟促進効果. 〔適用性〕	実・継	・生育期: 250, 500 倍液, 散布水量, 200 l / 10 a.	・効果の確認.
5) ACP- 68-250 液	・α-クロロエチルホスホン酸 10%	・節間短縮による麦の倒伏防止効果. 〔適用性〕	実・継	・出穂始期(出穂始~30%)に200~300 ppmを10 l / a 散布する. ・適用地域: 温暖地東部, 暖地. ・大麦類に適用.	・効果の確認. ・適用地域の拡大.
6) C.C.C 液	・2-クロロエチルトリメチルアンモニウムクロライド	・春播小麦の節間短縮による倒伏防止. 〔適用性〕	実	・6葉期前後, (草丈30~40 cm), 20 ml / a を散布する. ・適用地域: 寒地.	

昭和54年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和54年度畑作関係除草剤の適用性試験成績中央検討会は, 昭和54年12月12日, 日本都市センター(東京)において開催した。

その結果をここに報告する。

本年度供試された畑作除草剤は, 定性スクリーニング13剤, 作用性試験15剤, 適用性試験52剤, のべ試験点数 374 点(大豆94点, 小豆6点, 菜豆22点, とうもろこし49点, 落花生14点, か

んしょ11点, こんにゃく4点, てんさい26点, さとうきび20点, ばれいしょ39点, 陸稲2点)が実施された。適用性試験の結果, 「実」, 「実・継」, 「継」, 「継?」, 「中止」の判定を得たものは第1表の通りである。又, 実用化可能と判定され, 作成された使用基準は第2表の通りである。

第1表 昭和54年度畑作関係除草剤適用性試験成績結果判定表

区 分	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
1) 大 豆	NP-48 (Na) 水溶(単), アラクロール乳+DNBPA 液 [現]. (2)	CG-119 乳, MB-206 粒, P C P 水溶+起泡剤, アミベン液, アラクロー ル乳, アラクロール乳+ リニユロン水和 [現], ア ラクロール乳+DNBP 液 [現], KC-781 水和, ジクワット液, MCC 粒, アラクロール乳(新). (11)	SL-236 乳(体), NP-55 乳(単), BI-888 乳(体), トリフルラリン粒, L P ガ ス除草, S-28・U 粒, ト リフルラリン乳+プロメト リン水和 [現], B-3015・ P 粒(移), NTN-70 水和, SL-622 乳(体), HSW- 76 水和. (11)		
2) 小 豆		P C P 水溶 (1)	NTN-70 水和 (1)		
3) 菜 豆	アラクロール乳+DNBPA 液 [現], SAP・プロメト リン乳, BAS-3510(酸) 水和, BAS-3510(Na) 液. (4)	NP-48 (Na) 水溶(体), S-28 乳, B-3015・ P 乳. (3)	BI-888 乳(体), アラクロール乳(新). (2)		
4) 落 花 生	CG-119 乳. (1)	アミベン液, S-28・U 粒. (2)	SL-236 乳(体), アラクロール乳(新). (2)		
5) とうもろこし	B-3015・P 粒, ANK -553 乳. (2)	CG-119 乳, CG-123 フロアブル, アラクロー ル乳, SSH-41 水和, SSH-43 粒. (5)	L P ガス除草, トリフルラ リン粒, トリフルラリン乳 +プロメトリン水和 [現], SSH-42 乳, SSH-55 乳, アラクロール乳(新). (6)		
6) 陸 稻		トリフルラリン粒. (1)			
7) さとうきび	B-3015・P 粒. (1)	B-3015・P 粒, SSH -43 粒, SSH-43 水 和, G-315 水和, HW -920 微粒. (5)			
8) ばれいしょ	DCMU 水和. (1)	B-3015・P 粒, ANK -553 乳, AH-501㊦ 液, OK-622 液. (4)	トリフルラリン粒, ジクワ ット液, ローニート粒, ロ ーニート乳, HK-049 水 和, AH-502 水和. (6)		
9) かんしょ		CG-119 乳. (1)	SL-236 乳(体), SL-622 乳(体). (2)		
10) こんぴゃく	S-28 乳. (1)				

区 分	実	実・継	継	継？	中止
11) てんさい	NP-48(Na)水溶(移・体), B JL-119+展着剤(移), NTN-77水和(移). (3)		BI-883乳[現](移・体), NP-48(Na)水溶(直・体), B JL-119+展着剤(直), B JL-125(直), B JL-125(移), ローニート粒(直), ローニート粒(移). (7)	BJL-119(直), B JL-119(移). (2)	PL水和(直). (1)

注) (単)は単用処理, (体)は体係処理, [現]は現地混用, (新)は新剤, (移)は移植, (直)は直播である.

第2表 昭和54年度畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	CG-119	乳	実・継	土 壤	は 種 後	20~40 ml/a	火山灰土	温 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場.
	PCP + 起泡剤	水溶	実・継	土 壤	出 芽 前	PCP 100 g/a + 起泡剤0.2%	全 土 壤	寒 地	
	NP-48(Na) (単用)	水溶	実	茎 葉	イネ科 2~5L	10~15 g/a	全 土 壤	全 域	1) イネ科雑草 優占圃場, 2) 単用処理.
	MB-206	粒	実・継	土 壤	は 種 後	400~600 g/a	全 土 壤 火山灰土	寒 冷 地 暖 地 温暖地東部	1) 均一散布に 留意する.
	アミベン	液	実・継	土 壤	は 種 後	100~150 ml/a	火山灰土 全 土 壤	寒 冷 地 温暖地東部 暖 地	1) ツユクサに 劣る.
	アラクロール	乳	実・継	土 壤	は 種 後	30~60 ml/a (但し寒地 は30~40 ml/a)	全 土 壤 火山灰土	寒 地 寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場.
	アラクロール + リニュロン	乳 水和	実・継	土 壤	は 種 後	20~40 ml/a + 15 g/a 30~40 ml/a + 15 g/a	全 土 壤 火山灰土	寒 地 寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	1) 単剤の使用 基準を守る.
	アラクロール + DNBP	乳 液	実・継	土 壤	出 芽 前	30~40 ml/a + 40~60 ml/a	全 土 壤	寒 地	1) 単剤の使用 基準を守る.

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆 (つづき)	アラクロール + DNBPA	乳 液	実	土 壤	は 種 後	30~40 ml/a + 50ml/a	全 土 壤	寒 地	1) 単剤の使用 基準を守る。
	KC-781	水和	実・継	土 壤	は 種 後	50~65 g/a	火山灰土	温暖地東部	
	ジクワット	液	実・継	茎 葉	は 種 後 30~85日 (本葉5~ 6L)	30~50 ml/a	全 土 壤	温 暖 地	1) 大豆の茎葉 に薬液がかか らぬよう散布 する。
	MCC	粒	実・継	土 壤	は 種 後	400~600 g/a	火山灰土	暖 地	
	アラクロール (新)	乳	実・継	土 壤	は 種 後	30~60 ml/a	沖 積 土	寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場。
2) 小 豆	PCP	水溶	実・継	土 壤	は種直後	75~100 g/a	全 土 壤	寒 地	
3) 菜 豆	アラクロール + DNBPA	乳 液	実	土 壤	は 種 後	30~40 ml/a + 50ml/a	全 土 壤	寒 地	1) 単剤の使用 基準を守る。 ・金時類。
	SAP・ プロメトリン	乳	実	土 壤	出 芽 前	50~80 ml/a	全 土 壤	寒 地	
	BAS-3510 (酸) (体系)	水和	実	茎 葉	1年生非 イネ科対 象。 菜豆：初 生葉展開 期~本葉 抽出始期	5~10 g/a	全 土 壤	寒 地	1) 薬害により 5%程度減収 する場合があ る。 2) イネ科に効 果的な土壌処 理剤と組合せ。 3) 大正金時に 限定。
	BAS-3510 (Na) (体系)	液	実	茎 葉	1年生非 イネ科対 象。 菜豆：初 生葉展開 期~本葉 抽出始期	5~12 ml/a	全 土 壤	寒 地	1) 薬害により 5%程度減収 する場合があ る。 2) イネ科に効 果的な土壌処 理剤と組合せ。 3) 大正金時に 限定。
	NP-48(Na) (体系)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科 2~4L	10~15 g/a	全 土 壤	寒 地	・体系処理：広 葉対象の既登 録土壌処理剤 を使用。 ・大正金時。

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
3) 菜 豆 (つづき)									・手亡での検討.
	S-28	乳	実・継	土 壤	出 芽 前	30~40 ml/a	全 土 壤	寒 地	1) 特に碎土を 良好にする. 2) 土壌の乾燥 時には効果が 劣る. ・大正金時. ・手亡での検討.
	B-8015・P	乳	実・継	土 壤	出 芽 前	80~100 ml/a	全 土 壤	寒 地	・大正金時に限 定.
4) 落花生	CG-119	乳	実	土 壤	は 種 後	20~40 ml/a	全 土 壤 (砂土は 除く)	温 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場.
						20~30 ml/a	火山灰土	暖 地	
	アミベン	液	実・継	土 壤	は 種 後	100~150 ml/a	火山灰土	暖 地	
	S-28・U	粒	実・継	土 壤	は 種 後	500~700 g/a	火山灰土	暖 地	
5) とうも ろこし	B-8015・P	粒	実	土 壤	は 種 後	400~600 g/a	全 土 壤	寒冷地以南	1) 均一散布に 留意する.
	ANK-553	乳	実	土 壤	は 種 後	20~30 ml/a	全 土 壤	寒 地	
						20~40 ml/a		寒 冷 地	
						20~30 ml/a	火山灰土	温 暖 地	
	CG-119	乳	実・継	土 壤	は 種 後	20~40 ml/a	全 土 壤	寒 地	1) イネ科雑草 優占圃場.
							火山灰土	温暖地東部	
	CG-123	フロ アブ ル	実・継	土 壤	は 種 後	20~40 g/a	全 土 壤	寒 冷 地	
						30~40 g/a	火山灰土	温 暖 地	
	アラクロール	乳	実・継	土 壤	は 種 後	20~30 ml/a	火山灰土 沖積壤土 ~埴土	寒 地	1) イネ科雑草 優占圃場.
						20~60 ml/a	全 土 壤	寒 冷 地	
						30~60 ml/a	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	SSH-41	水和	実・継	土 壤	は 種 後	10~15 g/a	火山灰土	温 暖 地	
	SSH-43	粒	実・継	土 壤	は 種 後	400~600 g/a	火山灰土	温 暖 地	

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
6) 陸 稲	トリフルラリン	粒	実・継	土 壤	は 種 後	300~400 g/a	火山灰土	暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場。 2) 覆土2cm以 下の場合薬害 の恐れあり、 特に注意が必要である。
7) さとう きび	B-3015・P	粒	実	土 壤	植 付 後	400~600 g/a	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地 沖 縄 県 (八重山地 帯を除く)	・ 春 植.
	B-3015・P	粒	実・継	土 壤	植 付 後	500~600 g/a	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地 沖 縄 県 (八重山地 帯を除く)	・ 夏 植.
					中 耕 後				・ 株 出.
	SSH-43	粒	実・継	土 壤	植 付 後	200~300 g/a	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 春 植.
	SSH-43	水和	実・継	土 壤	植 付 後	10~20 g/a	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 夏 植.
	G-315	水和	実・継	土 壤	植 付 後	10~20 g/a	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	・ 春 植.
8) ばれい しょ	HW-920	微粒	実・継	土 壤	植 付 後	500~ 1000g/a	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	・ 春 植.
	B-3015・P	粒	実・継	土 壤	植付後~ 雑草発生 前	500~600 g/a	火山灰土	寒 冷 地	1) 均一散布に 留意する。
						400~600 g/a	火山灰土	温 暖 地	
							全 土 壤	暖 地	
	ANK-553	乳	実	土 壤	植付後~ 萌芽前	20~30 ml/a	全 土 壤	寒 地	
						20~40 ml/a	火山灰土	寒 冷 地	
						20~30 ml/a		温 暖 地	
	AH-501①	液	実・継	茎 葉	萌芽直前	40~70 ml/a	全 土 壤	寒 地	
	OK-622	液	実・継	茎 葉	植付後又 は萌芽前	20~30 ml/a	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地	

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
9) かんしょ	CG-119	乳	実・継	土 壤	挿 苗 後	20~30 ml/a	砂 土	温 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場。
						20~40 ml/a	火山灰土		
						20~30 ml/a	全 土 壤	暖 地	
10) こんにゃく	S-28	乳	実	土 壤	植付後又は 培土後	30~40 ml/a	全 土 壤	寒 冷 地 温暖地東部	
11) てんさい	NP-48 (Na) (体系)	水溶	実	茎 葉	イネ科 2~4 L	10~15 g/a	全 土 壤	寒 地	1) 耕起に際し ルートマット の反転埋没を 完全にする。 2) 体系処理： 広葉対象の既 登録土壌処理 剤を基準どう り使用する。 ・移 植。
	BJL-119 + 展着剤		実	茎 葉	雑草発生 始期	40~60 g/a + 10 ml/a	全 土 壤	寒 地	1) 指定展着剤 を使用する。 ・移 植。
	NTN-77	水和	実	茎 葉	雑草発生 揃期~8 Lまで	40~50 g/a	全 土 壤	寒 地	・移 植。

注) 現地混用については、お互い農薬登録が必要とされるので、その点十分注意して下さい。

昭和54年度水稻作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和54年度水稻作関係除草剤試験成績中央検討会は、昭和54年12月12日~14日の3日間、日本都市センター（東京）において開催された。その結果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適-1)成績の検討

昭和54年度の適-1試験は前年度と同じ7地域の試験場所で16薬剤（のべ69点）の試験が実

施された。その判定結果は第1表の通りである。

2) 第2次適用性試験(適-2)成績の検討

本年度の適-2試験は127剤（のべ751点）で、全国の77試験場で試験が実施された。その内訳は雑苗移植栽培用660点、湛水直播栽培用16点、乾田直播栽培用8点、畦畔雑草管理用39点、耕起前雑草防除用18点、休耕田管理用10点